



蒲小だより

子どもたちの学びと育ち...

文責 校長 山本智文

「柔軟で主体的な学びの力」を付けるためには、子ども自身が「**自らもつ力**」を精一杯発揮することが必要となります。自らが主体的に求め、追究していくことができる体験活動は、心の豊かさ、ものの感じ方、多様なものの見方・考え方を必然的に培っていきます。子どもたちが求めたものには、必要感等があり、これがエネルギーとなって「**意欲的な学び**」へと育っていくのです。心が揺さぶられ、心が動いていく子どもたちには「**生きてはたらく力**」が生み出されていきます。

「**子どもの主体的な学び**」を問う時、子ども自身の求めを大切にしていきたいのです。子どもは、本来、学ぶことが好きであり、目の前に壁となる問題が生じた時にも自分の力で何とかしようと豊かな発想と試行錯誤によって解決の道筋を作っていくようになります。子どものこの「**学びの力**」に注目し、総合的な学習の時間等でアプローチを進めていきたいのです。総合的な学習の時間は、教師の設定した内容をこなす、ねらいを達成していくといったあり方ではなく、子ども自身が求めたいものを追究する「**はじめに子どもありき**」の考え方に基づいた活動です。子どもたちの求めで重要なことは、その求めが切実感に満ちていて、必要感に迫られたものであるという事です。子どもたちに直接的に関わった「**人・もの・こと**」は、リアルに子どもたちの思いや願いを生み出していきます。子どもたちの求めをベースにして、学習計画等を立てることを基本としていく中で、子ども自身が自らにはたらきかけて追究していけるようにすることが重要なポイントとなるのです。

蒲刈小学校では、「**ふるさと学習**」に力を入れています。両蒲刈には、子どもたちにとっての生きた教材がたくさんあります。本校では、教室での学びを地域教材と出わせていくことで、子どもたちの、心の豊かさ、ものの感じ方、多様なものの見方・考え方を育てていくことに重点をおいています。なかなか他校では体験できないような活動を意図的・計画的に仕組んでいます。指導者の一方的な価値観で学びを押し付けるのではなく、子どもたちから「**こんなことにチャレンジしてみたい**」と思えるよう、子どもたちの成長を願い、指導に生かさせていけるよう、粘り強く取組を進めてきました。とはいっても、どうしても教師主導型になってしまうこともありました。子どもたちにとって「**どう、切実感や必要感をもたせた学びにしていけるか**」ということが蒲刈小学校教師の課題であり、腕の見せ所でもあります。

今年度は、「**フランス人観光客(豪華客船乗船者)に英語での“藻塩・ひめ塩”、“朝鮮通信使の歴史等”の紹介**」「**全校児童による秋の茶会参加**」「**デイサービスでの高**



「年齢者との交流会」「出身保育所での園児との交流会」「秋祭りやいきいきサロンでの和太鼓演奏や狂言の披露」等、学校での学びを地域に発信していきました。私たちは、「学校での学び（インプット）」をここで終わらせるのではなく、「地域に発信（アウトプット）していく」ことで、子どもたちの学びは深まり、ふるさと学習を通して、子どもたちの学びに対する切実感や必要感を高めていくものと考え取組を進めてきました。

「子どもたちの求めを受け止めること」、「子どもたちの求めをベースに学びを創り上げていくこと」、「子どもたちの学びと成長を見取り評価していくこと」、「長いスパンの活動の経過をたどり、何を育て、何が育ってきたのかその成果を見届けること」。これらの成果を数値に表すことはとても難しいことですが、目に見えにくい子どもたちの成長を教師の力量で写し出していく。柔軟な対応と創造、実践力で子どもたちの思いや願いを実現していくことが我々教師に課せられた責務であると思うのです。

令和 6 年度も残すところあとわずかとなりました。この一年間の取組の成果と課題を明らかにして、令和 7 年度に向けて果敢にチャレンジしていきます。

ミニコンサート

1月17日（金）の午後、蘭島文化振興財団様の主催により「ミニコンサート」を開催しました。今年度は、サクソフォンの演奏会となりました。サクソフォンの演奏者である上野耕平さん、ピアニストの高橋優介さんに来校していただき、本校の体育館でコンサートを行いました。子どもたちに、なかなか聴く機会のない「サクソフォン」の音色をぜひとも聴かせてあげたいとの思いから、昨年、夏頃から財団の担当者の方と打合せを重ねてきました。

当日は、蒲刈中学校の生徒・先生方、保護者、地域の方々のご参集のもと、演奏会を行うことができました。曲目は、「G線上のアリア」「サクソ・オ・フン」「ロック・ミー」「カルメン・ファンタジー for サクソフォン」でした。サクソフォンとそれを後押しするピアノの音色にどんどん引き込まれていく子どもたちの姿を観るにつけ、「**本物に出会わせることは大切なことだなあ。**」と痛感しました。

担当者の方に、「ぜひ、アンコールでチェッカーズの“ギザギザハートの子守歌”を演奏していただきたいので伝えておいていただきたい。」と懇願していたのですが、上野さんのところまで話がつたわっていなかったのが、思いは叶いませんでした。残念！

来年度も「ミニコンサート」を企画しますので、保護者の皆様、地域の皆様、奮ってご参集ください。楽しみ、楽しみ...



避難訓練（不審者対応）

1月24日（金）に、今年度最後の「避難訓練」を行いました。今回の内容は、「不審者対応」でした。下蒲刈駐在所の加計さんと蒲刈駐在所の井上さんにご協力いただき、校舎内に不審者が侵入した時の対応について訓練を行いました。

想定内容については割愛させていただきますが、授業中に事案が発生した場合の対処の仕方について考える機会を設定しました。突然のことだったので、驚きを隠せない子どもたちでしたが、訓練を重ねておくことで実際に起こった時に冷静に対応できる力を身に付けさせておきたいとの思いから場の設定を行いました。

私は、前任校で実際に経験しました。全教職員でマニュアルのもと対応について研修を行っていましたが、実際に生起すると頭が真っ白になってしまいました。しかし、事前に対応策を学んでいたのが躊躇することなく対応することができました。この時、改めて、「**訓練の大切さ**」を再認識しました。

書写大会！

1月29日（水）、全校児童による「**書写大会**」を開催しました。体育館に集合し、特別非常勤講師の増田先生のご指導のもと、子どもたちは課題の文字と真剣に向き合っていました。昨年度も感じたことですが、「**さまざまな企画に出会わせることで、子どもたちは自信を付けていくとともに自分の成長を実感していくのだなあ。**」と再認識させられました。

書写大会が終わった後、ある子どもが「校長先生、今年は納得のいく字が書けました。うれしかったです。」と報告に来てくれました。「継続は力なり」と申しますが、「**さまざまな企画と出会わせることで、子どもたちの心に灯をつける**」のだなとつくづく感じさせられた瞬間でした。

決して温かい日ではありませんでしたが、ぴーんと張りつめた体育館の中で集中して取り組む蒲刈小学校の子どもたちの姿を観ることができて校長としてうれしく思いました。感謝。

蒲刈小学校“神楽公演会”開催！

2月1日（土）、本来なら週休日のところ登校日とし、「**神楽公演会**」を実施しました。

蒲刈小学校の子どもたちが「地域に元気を与えたい！」との思いから、「神楽」を習い、学習発表会等で披露してきました。その間、コロナ感染症の拡大やさまざまな諸事情から神楽を継続することが難しくなりました。子どもたちと議論を重ねる中で神楽を継続することを断念することとしました。そのような経緯もあり、こ



これまで蒲刈小学校の神楽にご支援いただいた関係者の方々に対して感謝の気持ちを込めてこの度の「神楽公演開催」を行うことといたしました。

当日は、蒲刈小学校児童・教職員、蒲刈中学校生徒・関係職員、保護者、地域の方々、総勢200名以上の参加のもと、神楽公演が開催されました。

子どもたちの多くは、神楽を観るのは初めてだったと思います。今回の神楽「山姥」「葛城山」は子どもたちの心に刻み込まれたものと思います。鑑賞後、子どもたちに「神楽はどうだった？」とたずねたところ、多くの子どもが口々に「すごかった！」「とてもきれいだった！」「またみたい！」と言っていました。校長として改めて「本物に出会わせる」ことの大切さを実感した瞬間でした。

玄関で片づけをしていると、地域の方から「校長先生、いいものをみせてもらいました。ありがとうございました。」「いやーっ、とってもきれいでしたね。また、観たいです。」とおっしゃってくれました。正直、うれしかったです。

今吉田神楽団の方々が荷物の詰め込みが終わった後、私のところに来てくださり、「この度は、呼んでいただきありがとうございました。たくさんの方に観に来ていただき、とてもやりがいがありました。機会があれば、また、声をかけてください。」とおっしゃっていました。私は「こちらこそ、遠いところまできていただき、子どもたちに本物をみせていただき感謝いたします。ぜひ、また、蒲刈にいらしてください。」と感謝の意を伝えました。人とのつながりって素敵ですね。

ぜひ、また、企画したいと思います。感謝。「でも、資金がないよなあ....」

